NO.738 2023

聖イグナチオ教会報

8・9月

カトリック麹町教会

# MAGIS

マジス ＝ 「より、もっと、さらに」

教会テーマ　イエスにつながり　互いを受け入れ　御父の家へ　ともに歩もう

## 信仰講座を通して、神さまを探し求める

助任司祭 グエン・タン・ニャー

助任司祭として働きだして一年が過ぎました。任命書を受けてから、日本語の信仰案内講座も持つようになりました。2017年に叙階されてから、ベトナム語の講座は担当していましたが、日本語の講座を持つのは初めてで、毎回ドキドキしながら話します。幸いに、2人のペルパーに支えていただき無事に一年を終えて、今も継続しています。もちろん、ベトナム語の講座も継続しています。日本語とベトナム語の講座に関する感想をこの記事を通して、分かち合いたいと思います。

まず、言葉の面から言えば、ベトナム語の方が自信を持ち、話しやすいです。一方、14年間日本に滞在しても、日本語の難しさを感じています。毎回の講座のために、ベトナム語の講座より、準備する時間がかかります。参加人数については、ベトナム語の講座は、コロナ禍で多人数で教会に集まることを避け、現在もオンラインで行っています。人数は日本語の講座より圧倒的に多いです。平日のほぼ毎日講座があり、各グループには約80人から100人くらい受講しています。90分間の講座です。一方、日本語の講座の参加者の人数はそれほど多くないので、いつも家族的な雰囲気を感じて、準備したことについて、話すことができます。

そして、参加者の年齢も全然違います。ベトナム語の講座に出る人々は大体20代前半です。一方、日本語の講座の参加者の年齢はさまざまです。30代の方々もいるし、70代の方々もいます。両方の講座に出る多くの参加者がなんらかの形で神さまを探し求めていると強く感じます。

さらに、講座内容も少し異なります。基本的には一緒に聖書をゆっくり読んで、難しいことについて少し説明する形の講座です。しかし、ベトナム語の講座ではベトナム司教団に承認されたテキストにも沿って教えなければならないのです。なぜならば、参加者がこれからベトナムに帰って、生活する人々がほとんどなので、聖書や教会の教義など以外、向こうの教会の在り方について説明する必要があるからです。一方、日本語の講座には聖書を中心として、話すことができます。これはとてもありがたいことです。もちろん、日本カトリック教会の在り方についても話しますが、聖書を中心として話す講座になっています。

本当のことを言わせていただけるなら、日本語の講座もベトナム語の講座も、難しいです。言葉と年齢より、福音のメッセージそのものについて説明することは簡単ではありません。この世の価値観に慣れてしまう、あるいは、目に見える事柄しか信じない傾向を持つ現代に生きている私たちにとって、福音の価値観を理解することも、受け入れることも難しいと感じるからです。特に、ゆるしや犠牲や愛や謙遜などについて、どのように伝えたら良いかと混乱した時もあります。しかし、講座をやり続ける理由があります。それは、私たちは人間なのに、神さまについて話し合えることがなんとも美しいと感じるからです。聖書を通して、神さまのことを知ること、そして、神さまに対する疑問や不信感などを互いに分かち合う時、とても感動します。講座を通して、神さまのすべてのことを理解できていないが、一緒に、神さまを探し求め続けたいと思います。

教会報 MAGIS 8月9月合併号


† 第3回年次活動報告会 P2～3
† 教会行事報告 P4
† 教会活動グループ便り ⑥ P5
† 連載　光をつないで ⑧ P6
† Family of St.Ignatius ～インドネシア共同体から～ P7

## 【8月の共同祈願】

若者たちのために祈ります。

この夏のさまざまな出会いや体験が

信仰生活の種となり、

やがて豊かな実りとなりますように。

## 【9月の共同祈願】

私たち共同体が一つになり、

いつ起こるか分からない災害にできるだけ備え、

いざという時にまわりの方々と手を取り合って、

冷静に行動することができますように。

第3回年次活動報告会

# 「教会がえり」を踏まえて アフターコロナの「祈りと愛」の共同体づくりを目指す

**7月1日（土）15時よりヨセフホールにて、対面とオンライン配信で行われました。参加者は合わせて約60名で、再生回数は多数でした。高祖敏明主任司祭の挨拶と講話、助任司祭からの挨拶、2022年度の活動報告、2023年度の活動計画と会計報告が行われました。**

## 高祖主任司祭の講話

今日、7月1日は福者ペトロ岐部と187殉教者の記念日、2023年は江戸の大殉教400周年、2024年は献堂25周年です。聖イグナチオ教会の礎となった先輩の方々に想いをはせ、その土台の上に私たちがいることを改めて心に深く刻みたいと思います。

これからは「教会がえり」を踏まえて、アフターコロナの「祈りと愛」の共同体を目指したいと思います。教会テーマ「イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へともに歩もう」に沿って歩んでいきましょう。

・**「わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる」（マタイ28：10）**→信仰生活の初心に戻り、教会をガリラヤに。聖書（福音）と主イエスに出会い、つながる場にしたい。

・**「わたしはブドウの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」（ヨハネ15：5）**→イエスとつながっていないと枯れてしまう。御父が刈り入れをする時は痛みを伴うが、その後は豊かに実を結ぶ。

・**「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない」（マタイ6：14～15）**→人を赦すこと、時には自分を赦すことは難しいが、「主の祈り」にあるように、祈りながら互いを受け入れる。

〝シノドス〟（世界代表司祭会議）に心を合わせ、献堂25周年をともに祝い、〝ミッション2030〟の達成が教会の発展の基盤となるように祈りましょう。テーマをさらに深め、「祈りと愛」で生き生きとした共同体を目指したいと思います。

## 助任司祭より

**柴田潔神父**

命について考えた一年を2つのテーマでお話します。

①防災…12月から小委員会より実務チームが発足し、活動メンバー18人。主聖堂での避難訓練から帰宅困難者への誘導、トイレ、備蓄品について具体化。専門家からのアドバイスをもらいながら、1年以内に初期行動マニュアルを作成し、各言語に翻訳。ボランティア協力者と共有する。

②カブトムシ…2018年より当教会で育て始めたカブトムシは3代目に。子どもたちは命の神秘を味わいながら、募金を通して難民を支援している。

**ボニー・ジェームス神父**

ずっと祈ってきて、ようやくその時が来ました。コロナを乗り越えたことをうれしく思っています。中学生会、高校生会、青年会。若者を見ているとうれしくなりま

す。将来を担う世代ですが、人数が少なく、どう呼び集めるのかが大きな課題です。

英語圏グループにはさまざまな言語の信徒が集まっています。〝シノドス〟のテーマと同じで、ともに歩むことが大事です。英語圏グループの教会学校もようやく形になってきて、シラバス（計画書）を作成中です。楽しいこともありますが、チャレンジもある。どう乗り越えていくかが今の課題です。

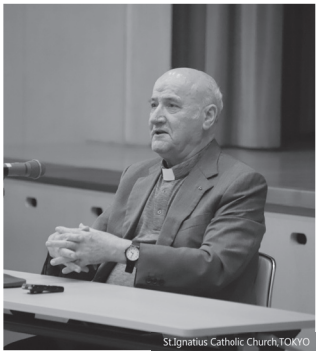
**グエン・タン・ニャー神父**

ベトナム人共同体の世話で忙しい日々です。毎週日曜15時のミサには、20代の若者を中心に約700人が集います。結婚講座、入門講座には、300～400人ほどの受講生がいて、ほぼ毎晩、他の司祭とシスターと手分けをして行っています。

アン・ベトセンターでは5月からベトナム人女性のアルバイトが入り、2人で手分けをして活動できるようになりました。ベトナム人の子どもたちの信仰教育のため、カテキズムのクラスも始めました。約20人の子どもたちが参加しています。家族とベトナム語で信仰について話ができるようにすることも目的です。

**サトルニノ・オチョア神父**

この教会は本当に生きていると思います。多様性に富んでいて、いろいろなグループがあります。この多様性が消えないよう、もっと増えるよう祈りましょう。どのようにすれば、一つになれるのか。これは挑戦です。先輩信徒の皆さんや東京という土地柄を生かし、教会をオープンにするにはどうしたらよいか。積極的に考えて、皆で一致したいと思います。


St.Ignatius Catholic Church,TOKYO

## 2022年度活動報告

**前信徒代表　齋藤順子**

テーマは「イエスがたたく扉を開いていこう 新たにつながるために 2030年に向けて一歩ずつ」、コロナ明けの正常化に向けて尽力した1年でした。

7月30日「イグナチオ年」の締めくくりとして、レンゾ・デ・ルカ神父の講演会とミサ。〝ミッション2030〟プロジェクトチーム発足。2016年の基本方針に立ち返り、福音の普及を目指しました。信徒中心の活動に向けて、活動グループ、所属連絡会の改良について提案。8月にはパイプオルガンのオーバーホール。オルガンについて4ヶ国語のチラシを作成し、教会祭でオルガンについて対談。11月の待降節第1主日に式次第変更。信徒が教会に戻るよい機会になりました。11月23日はフランシスコ教皇来日を思い起こし、レンゾ神父による教会黙想会。堀江節郎神父による四旬節黙想会とともに、定員を設けずに行うことができました。

待降節、四旬節のオリジナルカードでの一筆キャンペーンでつながりを取り戻し、各言語グループと違いを認め合いながら協働したクリスマスミサ、中井淳神父の困窮世帯へ食料配布を行うキッチンカーお披露目、新年炊き出し。教会学校の父母会によるウクライナ支援募金、トルコシリア地震・クリスマスバザー献金など、私たちに何ができるのかを考える多くの機会もいただきました。

## 2023年度活動計画

**信徒代表　塚本京子**

今年度のテーマは「イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へ ともに歩もう」、深い意味をもったテーマです。4月より髙祖主任司祭が着任。コロナ感染症は第5類になりましたが、聖堂内はマスク着用。スピード感を持って対応してくださり、オチョア神父も支えてくださいました。今後はまだ教会に来られない信徒のために、工夫を凝らしていきたいです。8月開催のワールドユースデーの派遣団への支援も引き続きお願いいたします。

〝ミッション2030〟では連絡会形式を深め、信徒自らが考え活動することに期待しています。献堂25周年ではテーマを決め、実行委員会を立ち上げ、イベントなどで盛り上げたいと思います。それぞれの賜物を生かしていただくようお願いいたします。9月には避難訓練があります。地域に貢献し、近隣の教会とも連携していきます。日頃の信徒同士の挨拶を大事に、より生き生きとした共同体を目指してともに歩んでいきましょう。

## 2022年度会計報告

**財務委員長　内田正**

2022年度の会計報告が5月の財務委員会で承認されました。詳細は6月下旬に皆さまに郵送しております。コロナ禍にあったこの3年間、皆さまから教会維持費を以前と同じ水準でご寄付をいただき、財務状況は健全性を維持しております。皆さまのご協力に厚く御礼を申し上げます。

St.Ignatius Catholic Church,TOKYO

## 教会行事

6月下旬から7月上旬に行われた主な教会行事をご紹介します

### ●堅信式

6月25日(日)15時半から主聖堂にて、行われました。104名の受堅者とその代父母に加え、一般会衆も参列しました。（現在もYouTubeで配信中）

司式の菊地功大司教は福音朗読（マタイ10：27）を受け話されました。「『明るみで言いなさい』『屋根の上で言い広めなさい』。この短い言葉に、福音を宣べ伝えなさいという意味が込められています。聖霊降臨の時、弟子たちは聖母マリアとともに静かに隠れていましたが、騒がしい外の様子を見に行ったら、色々な国の言葉で、大声で福音が語られていました。（編注　使徒言行録2：1～13参照）

聖霊が働いている教会は、騒々しく居心地が悪いです。教皇さまが目指すシノドス的教会とは、『すべての人が聖霊に導かれるまま自由に発言していて、なかなか落ち着かないが、分裂しないで一致している。このような教会共同体を作り上げよう』ということだと思います。

『水による洗礼、聖体、聖霊による堅信』の3つの秘跡を通じてキリスト教入信の秘跡が完成するので、堅信を受けられる方々は、成熟したキリスト者として誕生するはずです。聖霊に多くの恵みと助けをいただき、恵みを受ければ受けるほど責任が伴います。日々の生活の中で福音を語り、行いを通してそれを証しすることが、成熟したキリスト者の務めです。第一朗読（エレミヤ20：10～13）にもあるように迫害を受け妥協したくなるかもしれませんが、聖霊が必ず後押ししてくれます。

聖霊の導きにより頼み、キリストの福音を証ししていくことができるように、決意を新たに祈り続けましょう」

▶堅信式　左から菊地大司教、高祖神父

### ●侍者祝福式・更新式／ワールドユースデー（WYD）リスボン大会派遣祝福式

7月9日(日)10時から主聖堂にて。主司式は柴田潔神父。高祖敏明神父、ボニー・ジェームス神父、酒井陽介神父の共同司式で執り行われました。

侍者祝福式では、新しく侍者に任命された11名に柴田神父から白い襟が掛けられました。またWYDリスボン大会の派遣祝福式では、当教会の若者12名が祝福を受け、7月25日(火)～ポルトガルに派遣されました。

▲新侍者とワールドユースデー派遣者

## 8月6日から15日まで「日本カトリック平和旬間」
## 平和を願い、ともに祈りを…

日本のカトリック教会は、8月6日から15日までの10日間を「日本カトリック平和旬間」と定めています。これは1981年に来日された教皇ヨハネ・パウロ2世の「平和アピール」にこたえて定められたもので、翌82年から毎年行われています。

聖イグナチオ教会では、平和旬間期間中、各ミサの前に「アッシジの聖フランシスコの平和を求める祈り」を唱えます。「神は無秩序の神ではなく、平和の神」（一コリント14：33）であることを思い起こし、平和を願い、ともに祈りましょう。

### アッシジの聖フランシスコの平和を求める祈り

神よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。

憎しみのあるところに愛を、
いさかいのあるところにゆるしを、
分裂のあるところに一致を、
疑惑のあるところに信仰を、
誤っているところに真理を、
絶望のあるところに希望を、
闇に光を、悲しみのあるところに
喜びをもたらすものとしてください。

慰められるよりは慰めることを、
理解されるよりは理解することを、
愛されるよりは愛することを、わたしが求めますように。

わたしたちは、与えるから受け、ゆるすからゆるされ、
自分を捨てて死に、
永遠のいのちをいただくのですから。

# 活動グループ便り ⑥

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

## 真和会

### 3年半ぶりに講演会も…真理による和を目指して

「真和会」は1972年4月に発足し今日まで51年の間、創立の趣旨に基づいて活動をしています。

1962年～1965年に第二バチカン公会議が開かれ、教会の現代化（アジョルナメント）等が議論されました。

聖イグナチオ教会ではそれを目に見える形にして行くため、司祭と信徒が祈りと学びを通して分かち合いました。公会議での理念の一つ、「すべての人が聖性に招かれる」実現の一環として、すべての人に開かれる教会（その頃は敷居が高いと言われていた）での継続的な講演会の開催が提案され、信者・未信者に関わらず広く社会の善意の人々に呼び掛け、真理による和（＝人の和をもたらす真理のうちに一致）を目指す「真和会」として活動を続けてきました。

新型コロナウイルス感染症がまん延したため、2020年1月の278回以降は開催ができなくなりましたが、今年の7月12日（水）に3年半ぶりに279回講演会を開催しました。280回は10月11日（水）に髙祖敏明主任司祭、281回は12月6日（水）に慶應義塾長の伊藤公平氏にご講演をいただきます。これからも「ミッション2030」の福音を伝える一員としての役割を担って歩んでまいります。

▶3年ぶりに再開された講演会のポスター

※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。

## グループつなぐ

### 『マジス』送付、追悼ミサで教会に〝つなぐ〟

「グループつなぐ」（旧名・訪問グループ）は、グループの活動初期に、信徒や高齢・病気の神父様を訪問していたという歴史をもちます。現在は信徒の中でも特に、高齢や病気、その他さまざまな事情で教会へ足を運ぶことができない方々、また、帰天された信徒のご遺族と教会とをつなぐ活動をしています。

毎月第2木曜日の午前中に集まり、教会報『マジス』の受け取りを希望する信徒へお届けする送付準備作業をしています。『マジス』を読むことにより、現在の教会の様子を知ることができる、と楽しみに待っていてくださる方も多く、心を込めておよそ700部を封筒に詰めています。

また、前年に帰天された信徒を追悼する「合同追悼ミサ」を準備し、ミサ当日にご遺族をお迎えしています。追悼ミサによって初めて教会に来るという方や久しぶりに教会に来るという方もおられるため、神様との出会いの場となるよう、また、帰天された方を静かに偲ぶ時間となるよう、各グループと連携し準備をしています。

「グループつなぐ」は現在、メンバー募集中です。月に一度、午前中、教会で奉仕活動をしてみたいという方は、是非ご参加ください。

**日時：**第2木曜日
10時～正午
**場所：**信徒会館203
**内容：**教会報『マジス』送付準備作業

## 岩島忠彦神父キリスト教信仰入門講座

### キリスト教信仰を順序正しく学び、受洗し、よきキリスト者へ

本講座は毎週木曜日18時45分から20時15分まで信徒会館3階アルペホールで開催されます。

岩島神父がドイツのミュンスター大学で博士号をとり帰国、上智大学で神学部教授として働く傍ら、1985年4月からイエズス会士として宣教活動をこの木曜講座を通じて始められたものです。

天地創造に始まる旧約聖書の解説のなかで「神と世界と私」の3項関係を、そして新約聖書を詳しく読み解きイエス・キリストの福音を丁寧に系統だって教えられます。

秋には上石神井の「黙想の家」で一泊し、祈りの実践を学びます。最後にはキリスト者としての生き方を教えてくださいます。

講座で受洗された信者は延べ350名を超え、一つの共同体をなしています。昨年度はついに講座出身の司祭（越智直樹神父）誕生の神の恵みにあずかりました。

講座受講生には、毎回の講義の音声録音を翌週にはYouTubeで配信し復習に役立たせています。また、ヘルパーが種々お手伝いします。

お問い合わせはHP http://t-iwasi.my.coocan.jp/ からお寄せください。

連載　光をつないで ⑧

# 戦争の記憶と真理の渇望

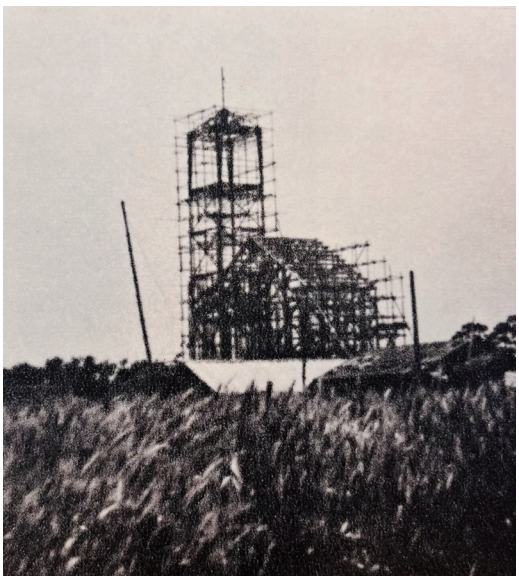
「光をつないで」は、当教会の青年信徒が聞き手となり、信仰上の諸先輩からその人生と神との交わりについての話を聞くことで、神とともにこれからの人生を歩むためのヒントを得ることを目的とした連載です。8回目は、当教会信徒マリア・エリザベートさん（88歳）に伺いました。

※語り手の名前は洗礼名

――第二次世界大戦中は、学童疎開をされていらしたのですね。

東海地方に集団疎開しました。疎開先での私たちの楽しみは家族からの手紙でしたが、やがてそれが来なくなりました。そして東京大空襲で級友の家族全員が亡くなり、私の家も焼けたことを知りました。

1945年3月末に焼け野原となった東京に帰りました。空襲を予想して父が作った防空壕で暮し、その後、田舎に行きました。終戦直前のことです。田舎では、軍馬のための草を籠いっぱい取るように言われ、植木ばさみを持って田んぼのあぜに行きました。



▶1945年5月の大空襲で教会が全焼したため、1947年にロヨラの聖イグナチオに奉献された聖堂の建設が始まった（現聖堂は1999年に建て替えられたもの）。写真提供『聖イグナチオ教会』（1964年発行）

大人に「そんなもので草が刈れるか」と笑われました。

――そして8月15日を迎えられた…。

ラジオ放送があるからと近所の人が集って来ました。聞きなれない抑揚の玉音放送の中でポツダム宣言受諾と聞き、日本が負けたことを知りました。母が「残念でございました」と挨拶しているのを聞いて、もう馬草（まぐさ）を集めなくてよいのでホッとしたことを覚えています。私は手伝い程度でしたが、当時女学生だった姉は、東京で勤労動員で工場で働いていました。

## 焼け野原に建設される教会堂を眺める日々

戦争が終っても食糧難は続きました。お弁当にサツマイモしか持って行けず、少しでも見栄えを良くしようと、さいの目に切ってお弁当箱に詰めたりもしました。通学電車の窓ガラスは割れ、「子どもは立て」と怒鳴られるので座る事もできませんでした。

四谷の土手の上から聖イグナチオ教会の聖堂が建設されていく様子を眺めることが楽しみでした。土手の木々は薪にするために切り倒され、麦畑になっていました。焼け野原に巨大な木造の建造物が立ち上がっていく様子は心躍るものでした。

## 大人に対する不信感

だまされていた、という思いが私たちの子ども時代の根底にはあると思います。終戦の日が来て、すべての価値観がひっくり返ったのです。進め一億火の玉だ、お国のために死ぬのが美徳だと教わっていたのに、あっけなく終ったのです。「本当のことってどこに!?」という疑問がいつも胸にありました。カトリックの学校に通っており、戦後受洗する友人も多く、シスターになった方もいました。

姉が高校生の頃、受洗の希望を母に伝え、反対されていました。当時は「アーメンは御免」という言葉が周囲にある時代でした。私はそれなら臨終の時まで待とうと思いました。友人との待ち合わせを口実に教会に行くこともありました。

――そこからどのように洗礼に導かれたのですか？

たまたま婚約者がカトリック信者でした。結婚できなくなると反対していた母もはや何も言わず、ついに受洗することが出来ました。結婚して、子どもにも恵まれ、子どもたちの手を引いて教会に通いました。

◇

「第二バチカン公会議が開かれて本当に嬉しかった」と語るマリア・エリザベートさん。「やっと東洋からの声も届くようになる。ヨーロッパと東洋の価値観の相克とさまざまな疑問からの解放を長年願って来た者として、明るい未来が見えてきたと感じた」と。そこには、さまざまなキリスト教への誤解や家父長制が厳しい時代に信仰の面で逆境に立たされた女性たちの変革への期待と喜びが感じられた。

現代においても信仰を表明する事が困難な状況にある人々が身近にいることを忘れずに、これらの兄弟姉妹のために一致して祈り続けたい。

## Family of St.Ignatius

### ～インドネシア共同体から～

シノダリティ。私たちは地上においてともに歩んでいる神の教会です。聖イグナチオ教会のインドネシア人カトリック共同体にとって、私たちはこの言葉の本当の意味を、身をもって体験しています。

私たちの共同体には、益々新しい信徒の方々が入ってきます。通行人（つまり観光客）として、あるいは一時的な住民として入ってくる信徒の方々もいます。彼らを私たちの共同体に迎え入れることは必須です。と同時に、私たちは彼らを神の恵みとして迎え入れる必要もあります。私たちは、さまざまな奉仕を通して、神への奉仕に参加するよう彼らを招きました。各メンバーが持っている才能と関係なく、私たちは彼らの意欲だけに基づいて奉仕するように招いています。ミサのオルガニストになるために、聖歌隊で歌うために、朗読者になるために、祭壇奉仕者になるために練習している方々は徐々に増えています。ここで注目していただく言葉は「練習」です。オルガン伴奏は基礎的な弾き方でしかまだできていない状態かもしれませんが、共同体のミサ中の歌声でその伴奏が支え合っています。他の奉仕も完璧な奉仕ではないが、共同体との奉仕の中で支え合っています。

これらのことから私たちが学んだ教訓とは?シノダリティとは、完璧な共同体としての歩みではありません。私たちの豊かさからではなく、足りなさから支え合っている（ルカ 21：1 ～ 4）共同体として、私たちはともに歩んでいるのです。（アントニウス・フィルマンシャー神父）

## ●宣教司牧評議会からのお知らせ●

**（7 月 6 日開催）**

10月 8 日（日）に開催する教会祭の実行委員会を立ち上げます。教会祭のテーマは、「さぁ、ともに歩もう～ 25 周年、そしてその先へ～　」です。

4 年ぶりに敬老ミサは 9 月17日（日）10:00 に長寿の集いは10月21日（土）に開催します。お知らせを80歳以上の方にお送りします。

## ● Sr. 景山あき子に感謝●

聖イグナチオ教会で50年以上にわたり教会学校を担当してこられた援助修道会の Sr. 景山あき子がご高齢のため東京を離れることになりました。Sr. 景山は多くの子どもたちへの信仰教育、教会学校リーダーたちの精神的成長の導きを中心に、障害のある方に手を差し伸べ寄り添ったり、活動グループに信仰講話をされたり、その他さまざまな教会活動で活躍してこられました。

これまでの導きに感謝するとともにこれからのご健勝とご多幸をお祈りいたしましょう。

## ●献堂 25 周年記念シンボルマーク募集●

これからの聖イグナチオ教会を支えていく次世代の皆さんから、献堂25周年記念のシンボルマークを公募します（締切：9 月10日）。皆さんのアイデア、一人ひとりが神さまから頂いた賜物を、ぜひ活かしてください。

提出先は教会事務室です（ウェブ提出も可）。応募作品は、教会祭で展示します。詳細は、教会ウェブサイトに掲載の募集要項をご覧ください。積極的に参加し、ともに歩む教会を作りあげましょう。

ミッション 2030

### ～祈り・つたえ・つながり・ともに歩む～
### 「世界難民移住移動者の日」に心を寄せて

①オンライン講演会（Zoom）

**「難民の友に、難民と共に」**

**講師：**漆原比呂志氏
（国際協力 NGO 一般社団法人 JLMM 事務局長）

**日時：**9 月 9 日（土）15:00 ～ 16:15

**参加方法：**以下の URL または QR コードから事前申込
https://forms.gle/1vkFE9QVUbowTm9t8

**申込締切：**9 月 7 日（木）16:00

②フィールドワーク

**「アルペなんみんセンターを訪ねよう」**

**日時：**9 月24日（日）14:00 ～ 16:00

**場所：**NPO 法人アルペなんみんセンター

**参加方法：**8 月26日（土）15:00 よりオンライン申込開始

①②ともに詳細は教会ホームページ、ポスター・チラシなどでご確認ください。

## ●財務報告●

6 月25日（日）「聖ペトロ使途座への献金」830,161 円は教皇様の活動のために捧げます。

## ●教会の夏休み●

| | |
|---|---|
| 教会案内所 | 8 月14日（月）～19日（土）夏休み |
| 信徒会館 | 8 月 1 日（火）～31日（木）19時閉館 |
| 告解 | 8 月15日（火）～ 9 月 1 日（金）休み |

クリプタは平常通り（9 :00 ～16:00）お参りできます。

## 8 月の典礼と行事

| | |
|---|---|
| 1　（火） | **ワールドユースデー 2023　リスボン大会　1 日(火)～ 6 日(日)** |
| 4　（金）　初金曜日 | 祈りの集い　19:00 |
| **6　（日）　主の変容の祝日** | 日曜サロン　11:00～12:30　ヨセフホール　**日本カトリック平和旬間(6 日～15日)**<br>ワールドユースデー（ＷＹＤ）リスボン大会パブリックビューイング　マリア聖堂<br>・教皇様と共に過ごすＷＹＤ徹夜祭、聖体賛美式（録画）　15:00～<br>・ＷＹＤフランシスコ教皇による閉会・派遣ミサ　ライブ配信　17:00～ |
| 12　（土） | **平和を願うミサ・東京カテドラル　11:00** |
| **13　（日）　年間第19主日** | **ミャンマーの子どもたちのため・特別献金** |
| **15　（火）　聖母被昇天の祭日** | **平和祈願ミサ　7:00　10:00　12:00(英語)　13:30(スペイン語)　18:00** |
| 16　（水） | クリプタに安置され 8 月に命日を迎える方々のためのミサ　12:00 |
| **20　（日）　年間第20主日** | 日曜サロン、ミニオリエンテーション　11:00 ～ 12:30　ヨセフホール |
| **27　（日）　年間第21主日** | |

## 9 月の典礼と行事

| | |
|---|---|
| 1　（金）　初金曜日 | すべてのいのちを守るための月間　10月 4 日まで |
| 2　（土） | 大地震避難訓練　18:00ミサ後 |
| **3　（日）　年間第22主日** | 大地震避難訓練　10:00ミサ後　**被造物を大切にする世界祈願日**<br>ワールドユースデー感謝ミサ　10:00<br>ワールドユースデー派遣者帰国報告会　11:15～12:30　ヨセフホール<br>**イグナチアンユースデー（ＩＹＤ）　17:30～20:30　芝生・ヨセフホール** |
| 9　（土） | **ミッション 2030 オンライン講演会（Zoom）15:00～16:15**<br>**「難民の友に、難民と共に」講師：漆原比呂志氏** |
| **10　（日）　年間第23主日** | 子どもとともにささげるミサ　10:00<br>大地震避難訓練　10:00 ミサ後　12:00 英語ミサ後<br>日曜サロン　11:00～12:30　ヨセフホール<br>ミサがわかるセミナー　13:00　ヨセフホール<br>「いつくしみ深く愛に満ちておられる神」　講師：ヘネロソ・フローレス神父 |
| 13　（水） | 水曜ティーサロン　12:00 ミサ後<br>傾聴ルーム　13:00～15:00　ヨセフホール |
| **14　（木）　十字架称賛の祝日** | |
| 16　（土） | 新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座　15:00　ヨセフホール |
| **17　（日）　年間第24主日** | **敬老ミサ　10:00** |
| 20　（水） | クリプタに安置され 9 月に命日を迎える方々のためのミサ　12:00 |
| **24　（日）　年間第25主日** | 日曜サロン、ミニオリエンテーション 11:00～12:30　**世界難民移住移動者の日・献金**<br>**ミッション2030　フィールドワーク「アルペなんみんセンターを訪ねよう」14:00～16:00**<br>**教会活動連絡会議　13:00　ヨセフホール** |
| 27　（水） | 水曜ティーサロン　12:00 ミサ後<br>傾聴ルーム　13:00～15:00　ヨセフホール |
| 28　（木） | ヤングオールド映画会　「オー！ゴッド」　13:00　ヨセフホール |
| 30　（土） | 教勢調査　18:00 ミサ |

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：髙祖　敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田　潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
関根　悦雄
マヌエル・シルゴ

シスター：イベッテ・サンチェス
（セントロ・ロヨラ）
フロール・フロレーセ
（ジョン・デ・プリット　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

**ミサの時間　Mass**

【平日 Weekday】主聖堂　Main Chapel
7 :00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（English）/13:30（Español）/
15:00（Việt Nam）

【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's　Chapel
12:30（Português）/16:00（Polski）

【月の第 2 第 4 日曜日　2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

**カトリック麹町教会**
**（聖イグナチオ教会）**
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp
ホームページ　フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

＊ 本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。